

今後の宇宙政策の在り方に関する有識者会議 第7回会合 結果要旨

1. 日 時 平成 22 年 4 月 20 日（火）13:30～14:30
2. 場 所 542 会議室（合同庁舎 4 号館 5 階）
3. 出席者 （政務三役） 前原大臣、大島副大臣、泉大臣政務官
（敬称略） （構成員） 松井孝典、中須賀真一、秋山演亮、薬師寺泰蔵、山川宏
4. 議 題 (1) 今後の宇宙政策の在り方について
(2) その他
5. 資 料
資料 7-1 今後の宇宙政策の在り方に関する有識者会議 提言書（平成 22 年 4 月 20 日）（委員提出資料）

6. 概 要

今後の宇宙政策の在り方に関する有識者会議としての提言書について意見交換を行った。主な意見は以下のとおりであった。

- ・ 宇宙政策はこれまでコミュニティの中に閉じており、外から見えにくかったのが問題ではないか。そのような問題意識の下、提言は外から見て分かりやすくするという観点から取りまとめた。
- ・ これまでの研究開発を中心にした宇宙政策ではなく、システム化を図ることが重要であり、そのためには、横の連携が不可欠であることから、強いトップダウンのコーディネートというファンクション（その機能を担う体制）が重要ではないか。
- ・ 有識者会議としての提言は、経団連の提言や宇宙基本計画と大きな方向性は一にしている。大きな特長は、まずは我が国として、宇宙が必要であることを明記している点である。
- ・ 日本の方針を考える際には、EU が参考になるのではないか。まずは足下を固めていくことが重要ではないか。
- ・ 将来の社会システムを考える際に、宇宙というインフラを考慮に入れることにより、例えば防災や環境対策といった分野でこれまでと異なることが可能になるのではないか。そのような取組みが成長戦略に繋がっていくのではないか。
- ・ 自在に宇宙を利用する能力を考えた際に、輸送系については、関係者から、既にできあがったロケット（H-IIA ロケット）を製造するだけでは技術の維持は困難であり、新たな開発を継続していくことが重要であるとの意見が聞かれた。その

点については考慮すべきではないか。

- ・ H-II A ロケットと並び、現在、開発が進められている小型固体ロケットも日本の重要な輸送系の一つである。計画を遅延無く進めることが重要ではないか。
- ・ 準天頂衛星等、実用化に向けての各省庁の取組みが活発化していないものがある。宇宙というインフラを進めるひとつの例として、各省庁も巻き込みながらパッケージ化戦略を進め、宇宙の民間での利用を官側が主導していくべきではないか。
- ・ 日本が利益を得るためには、まずは地球周りの宇宙政策を重点的に進めるべきではないか。そのことは将来の月探査などの取組みに相反するものではなく、その基盤となっていくものではないか。
- ・ 日本の宇宙政策の問題点は、打上げ機数が非常に少ないことではないか。そのため、ロケットの打上げ価格なども高いことを考えれば、産業化に向けて、衛星のシリーズ化などを通して、打上数を増やしていく取組みが必要ではないか。

提言書の取りまとめ終了後（資料 7-1 からの変更点なし。）、松井座長から前原大臣に対し、提言書を手交した。その際、前原大臣より、有識者会議委員に対し、一般の提言に係るフォローアップについて引き続き協力を依頼する発言がなされた。

以上